

ひまわりの会（デイサービス）

以下は、ひまわりの会参加者の学集会向けに、発行した冊子の文章です。

< 1 >

①「育児サークル」ってなに

少子化という言葉聞いたことがあると思います。現在、日本に生まれる赤ちゃんの数が少なくなっています。そのことについては、下田市を含む賀茂地区でも同様の少子化が進んでいます。

子どもの数が多かった時代は、兄弟も多く近所の子ども数も多く自然と子ども同志・母親同志のふれあいの機会が多くありました。現在では、幼稚園・保育園、又は学校に入る前に子どもどうしが集団で触れ合う機会が少なくなっています。

そこで、子どもどうしのふれあいの機会を作ると共に、母親どうしも互いに育児の楽しみや悩み、工夫を話し合える場が「育児サークル」です。

②「ひまわりの会（デイサービス）」ってなに

ひまわりの会（デイサービス）も育児サークルの一つです。一般の自然発生的なサークルと違う点は育児に対する不安・子どもの発達や成長に関する心配事にすぐ答えられるように専門の職員がいる点です。児童相談所の職員や各市町村の保健師がスタッフです。

③「育児サークル」で子どもも伸びる

集団で会を開いたり、集団で遊んだり「育児サークル」に参加する良さは沢山あります

座って待つことの苦手な子どもは、まわり子ども達が座っている様子を見ながら励まし、少しずつ座っている時間を延ばす事も出来ますし。遊びを広げたい子どもの場合は、他の子ども達の遊びと触れる中で興味を広げることが出来るかも知れません。もちろん保護者どうしコミュニケーションも大切にしてください。

< 2 >

①「はじめの会・おわりの会」の意味

「はじめの会・おわりの会」の目的は当然、会のはじめと、終わりを教えることです。会が始まったらお勉強の時間と意識してくれば集中力も高まります。

一日の生活の流れの中で「食事の時間」「お風呂の時間」「寝る時間」「お勉強の時間」

といういくつかの区切りを付けることで、子ども達の一日は流れを作り生活リズムとなっていくのです。

②「はじめの会」「終わりの会」のプログラムのねらい

ひまわりの会（デイサービス）では、毎回のプログラムの前後に、「はじめの会」「終わりの会」の時間をつくっています。会の内容は「各自椅子に集合する・みんなで歌を歌う・あいさつをする・名前よびをする」という形式が一般的です。この短い時間にも、色々な目的があります。

まず、この年令の子ども達に必要なことを考えたいと思います。幼稚園（保育園）入園前の年令の子ども達に必要な事は、「見る・聴く・待つ」の**基本的学習態勢**であるといえます。この三つのことがまず出来ないと少人数でのグループ活動が難しいといえます。それらの力を、サークルの中で育てたいと思います。

「見る」とは、指示した場所に注目する力です。小学校入学時には、黒板の文字に集中できる力を付けたいものですが、まずは司会者の顔を見ることを教えていきたいと思っています。

「聴く」とは、多人数の中で発言を聞き取る力です。教室の中で大勢でいたときに呼ばれて自分が指定されたことを理解できるようになりたいものです。まずは、一対一で「名前呼び」に返事することから始めます。少人数の中で呼び掛けられた時間き分ける力が必要です。

「待つ」とは、きちんと座ってられる力です。少人数での学習ではかならず必要な力です。小学校入学時には40～50分の着席する力が必要です。サークルでは、名前呼びやサーキットの順番を待てるようになることから始めましょう。

< 3 >

<サーキットの目的>

ひまわりの会（デイサービス）で毎行なうサーキットも一つ一つのねらいを理解しているとより充実したものになると思われれます。

①学習態勢作り「待てる・指示行動がとれる」

サーキット活動を通して学習態勢作りの訓練が出来ます。まずは進行する司会者の指示にしたがって行動すること・前の順番に行なった子どもを手本として注目したり模倣出来るようになることも大切です。

②「子どもとの関係作り」

サーキットを行なう中では、きっと子どもに難し課題もでてきます。その時助けの手

を出してあげるのは、お母さんです。助けを求め、それに応える関係を作ることが出来るのもサーキット課題の良さです。

③運動の効果「体の協応動作・言葉への発展」

体を動かす活動は、単に体力をつけるだけのものではありません。目で見ただけの行動を、自分の身体で真似てみる事は身体をコントロールする力になります。最初は身体全体での模倣が次第に細かな身体の（指先や唇の）コントロールに発展するのです。子ども達はゆっくり発達します、いま体を沢山動かすことは発達の基礎となるのです、十分に活動させてあげましょう。

また、色々な経験が（子どもですから当然遊びを沢山）子ども達に目的意識や要求する心を育てます。「なにか欲しいとか、なにかしたい、なにか伝えたい」という欲求が、子ども達の言葉を発する動機となっていくのです。

言葉は、心と身体の発達の土台の上に育つものです。遠回りに思えても、たくさんの楽しい経験と十分な身体活動が、言葉獲得への近道です。

< 4 >

< 誉めることで、子ども達は伸びていく >

「子どもは、誉めて伸ばせ」とは、よく聞く言葉です。その言葉のとおりになれば、子どもは成長し、母親も気分良く、親子関係も良いものになっていくに違いありません。

でも、子ども達は親の思いの様には動いてくれません。ついつい、叱ってばかりになりがちですが、あきらめないでください。

子ども達を誉めるにはコツがあります。

①出来る課題を与える。

最初から出来ないことを課題にしても、成功するはずはありません。その子に合った課題（成功することが出来る課題）を与えてください。マットで前転が出来ないならまずはゴロゴロからです、そして出来たことを全員でおおいに誉めましょう。

しかし、時には難しい課題に取り組まなければならないこともあります。その時には、一連のプログラムの最後に出来る課題を設定して、良い気持ちでプログラムを終えることが出来るように工夫してあげましょう。

②誉める機会を作る。

例えば、椅子に座って待つことが苦手な子どもが名前呼び順番を待つのは苦痛です。じたばたして「しっかり座りなさい」と叱られてしまうかも知れません。そういうときは、無理せずしばらく椅子の後ろで膝に抱いてあげて、順番の直前に座らせてはどうでしょうか。返事に成功したら大いに成功を誉めてあげてください。子どもも誉められる

喜びを覚えれば次からは、もう少し長く待てるようになるかも知れません。(もちろん、他の子どもの集中を妨げるほど走り回っては困りますが)

< 5 >

①司会者の役割り・介助者の役割

サークルには、会を進行する司会者と介助者（保護者も含めて）の役割があります。司会者の求める課題を理解して、子ども達を成功させることが介助者（お母さん）の役割です。子ども達の後にいて介助する役割の人は、適切な介助で子ども達に司会が要求している行動を達成する手助けをしてください。そして、成功したら大いに誉めます。

当然子どもが自発的に成功することが良いのですが、待ちすぎると何を要求されていたのか分からなくなってしまうこともあります。子どもの出来ること出来ないことを見極めて少しだけ介助の手を差し伸べて課題を成功させてあげましょう。司会者が誉めることが出来る様にしてあげてください。

平均台なら最初は手を握ってあげ、次は指だけ、その次は半分までと子どもが一人で出来る部分を少しずつ延ばしていく事がコツです。あいさつなら最初は後から手を動かし正しい返事の仕方を教えてあげてください。

②叱る・誉めるのメリハリを付けよう

大勢の人が見ている中ではそれが自分の子どもであっても、叱ったり・誉めたりすることは緊張します。なおさら他人の子を叱ることは難しく、つつい叱っているのか遊んであげているのか分からないような半端な態度をとってしまいがちになります。これは、子どもにとって良くないことです。(保護者だけでなく職員もです。)

やはりコツがあります。「**すぐに叱る** (子どもが悪いのではなく、その行動が悪いのです)」「**いつまでも叱らない** (子どもは存在が否定された気分になってしまいます)」「**正しい行動を同時に教える** (いまは～する時間。～はこういう使い方が正しい。と教えてあげてください。)」

そして、誉めるべきことは大いに誉めましょう。

例えば、子どもが手づかみでおかずを食べたとき。あいまいな笑顔で、やさしげに「いけないでしょう」と、言われたら。子どもは理解できません。「いけない」「ペけっ」等子どもに解かる表現で、間違った行動を止め、フォーク等で食べる方法にすばやく訂正します。そして、道具を使って食べられたことを、大いに誉めるのです。

< 6 >

①出来れば毎回来てください。

子どもたちは、経験の積み重ねで成長していきます。「繰り返しの練習で、何かが上達した」経験は皆さんにもあると思います。先週できなかったことも、先週までの積み重ねで今週は出来るかも知れません。この事はひまわりの会（デイサービス）の活動だけに限りませんが、やはり「継続は、力」です。とにかく参加の機会を与えないことには何も始まりません。

ただし、体調が悪いとか他の都合で無理をさせてしまう場合など、やはりその子の状態を見て休ませることが必要なときは、無理をしないでくださいね。

②子どもの自由とルールということ。

「子どもは、自由にのびのびと育てほしい」とは、親ならだれしも願うことです。そう願うことと、実際の子どものしつけとは異なります。現実に必要なのは「子どもを自由にしてしまう」事ではなく「子どもに自由の意味・価値を教えたい」のはずです。

社会生活では、ルールを守った上での自由が大切なはずですが。「自由」は、「無法」とは異なります。幼稚園のルール・友達とのルールを身につける為にすくすくで守ってもらいたいルールがあります。

まずは、「大人の言うことを聞く」です。先生の指示に従って行動することにつながりますので、今は「大人（親）の言うことを聞く」様に教えてください。

次に、「他者を尊重する」ことです。集団で活動や教育を受けるためには必要なことです。すくすくでは、自分の順番が回ってくる前に他児の活動を見たり、他児の上手な活動に拍手したりすることによりその心を育てたいと思います。

< 7 >

(1)子どもの「自立」

「自立」は子どもの成長に大きなテーマです。「自律」という字を書いたりもします。まず、幼児期の子どもは親の保護の下で成長します、急に自立したりはしませんね。自立は急に出来るものではありません、まずは一人で服を着たり・トイレにいったりすることから始めて子どもたちは次第に一人で行動することに自信を持っていきます。親として協力できることは、正しい行動を教えてたり成功したときは大いに（誉めたり）認めてあげることです。

大切なことは、そのこのペースを見守って必要な手助けをすることです。手助けが多すぎたり、急かし過ぎたりすることは自立を妨げることになるかもしれません。

(2)子どもの「自由」

何の判断力の無い子どもに、道路を自由に歩かせたりはしないはずですが。きちんと道路の歩き方を教えるのは親の役割です。人が（判断力や行動力を持って）自由な行動を

する為には訓練と経験が必要です。幼児にその力をつけるのは親の役割です。

幼児期には幼児期の判断できる範囲があります。その範囲を決めるのは、その子どものことを一番知っている親です。

子どもの行動を規制することを恐れないでください。それは、子どもの教育の為に必要なことです。ひまわりの会（デイサービス）では、少人数のグループ活動でのルールを教えたいと思います、おもちゃを順番で使ったり・先生のお話を静かに聞けるようになったら、きっと幼稚園や保育園で上手な自由遊びが出来るようになると思います。

子どもの自由の範囲は最初は小さくて、成長と共に、徐々に広がっていくものと覚えてください。

< 8 >

①子どもには、素直に話しましょう

幼児期には、物事は単純に映ります。このことは幼児期の特徴です、子どもが単純なのは当たり前です、小さいんですから。子どもの世界は、好い悪いも単純なのです、大人のように灰色の部分には理解できないのです。

ですから、親に悪口を言われると「自分は悪い子なんだ」と単純に考えてしまいます。大人なら「今日は、お母さん機嫌が悪いのかな…」と聞き流すところですが。

そんなことは、十分に解っているのに、ついつい子どもに「いやみ」を言ってしまう事があります、誰でもあります。例えば、食事の時間 子どもがおかずを落としてしまったら「もうまったく何やってんのよ、いつもいつも・・・」、本当に言いたいことは『次は落とさないように注意しなさい』のはずです。お出かけ前になかなか着替えがはかどらない時に「まったくあんたは、ぐずなんだから、お母さんは忙しいのに待ってるのよ・・・」、本当に必要な言葉は『着替えに集中してしなさい』です、ついつい言いすぎてしまうのは、いつものことです。だれしもあることです。

子どもの理解できないことを言うのは、親のストレス発散や意味の無い満足の為でしかないと思います。ストレートに話しを出来るのは、子どもの小さいいまのうちだけです、この時間を楽しんでください。

②本の読み聞かせを、していますか。

子どもに本を読んでいますか。読みきかせの効果は、単に書籍の内容を伝えるだけのものではありません。単純に考えてもいくつかの目的が考えられます。

「言葉を覚える」「考える力をつける」「集中力を身につける」「想像力が身につく」等々色々な効果を望めますが、何より子どもと楽しい時間を持つ事が一番の良い点です。最初は、子どもが遊びたがり読み聞かせに成らない場合があるかもしれませんが、かま

わず親が楽しそうに本を読み続けければ良いのです。楽しそうにしていれば、必ず子どもの興味を引きます。

< 9 >

①いじめ

「いじめ」の何たるかを考えるのは、このつぎにして自分の子どもがいじめにあったらまたは自分の子どもがいじめに参加していたらを考えたいと思います。

もしも、(裁判所では無いのですから、いじめの証拠は無くても好いでしょう) **自分の子どもがいじめに参加しているようなら**、やめなさいと言ってもきっと影に隠れてしまうでしょう。年令の小さい子どもですなかなか他人の気持ちが理解できないのは無理ありませんが、「その時、いじめられた子どもの気持ちはどうだったかな」「自分がいじめられたらどんな気持ちかな」と他者を思いやる気持ちを育てて対応してください。

もしも、**自分の子どもがいじめられている様子があったら**、些細な事を見逃してはなりません。そのことを、軽く考えてはいけません。決して、「あんたも悪いところがあったんじゃないの」「強くなりなさい」「ちゃんとやり返しなさい」等の言葉で軽く受け流さないで下さい。これらの言葉は言外に、『あなたがしっかりしていないからいけないのよ・弱いあなたが悪いのよ』と子どもに伝えています。これでは、子どもは次から親に相談しにこなくなってしまうです。

そんなときは、子どもの話をしっかり聞いてあげましょう。そして解決法を考えます。

学年が小さいうちは、学校の先生から一言いってもらったり、遊びの内容をくふうするように助言することで改善が見られる場合もあると思います。この年令を越えた後も様々な人間関係のトラブルもあるでしょうし、つぎつぎと問題も起こってくるはずです。

大切なことは、親に心配事を話せる親子関係を育てることと・解決の手段を考える力を付けることです。(このことを、エンパワメントと言います)

< 10 >

①季節の行事を大切にしましょう

毎日の、生活の確かな繰り返しこそが、子どもを安定させ生活上の技術を身につかせます。

しかし、子ども達はイベント(行事)でぐっと伸びることも事実です。新しいことへの挑戦は経験の幅を広げ、子どもの人生を豊かにします。海外旅行にスキーにキャンプ・・・は素敵なのですが、まずは季節の行事を大切にしてください。お正月にドンド

焼き、ひな祭り、こどもの日、お盆、体育の日・・・誕生日、衣替え、大掃除、母の日、敬老の日・・・と、数え上げれば限がなくなるのですが。一日の生活の中で、朝昼夕の食事や起床・入床の流れを一定にすることにより、子どもは生活リズムを身につけ、安定した状態で学習に取り組むことが出来ます。そのことと同様に、一年という長い時間に、季節の行事が節目を作り、確かなリズムを刻むのです。そうして作られる安定した・規則正しいリズムを持つ環境が、子どもを発達させ・成長させるのです。

季節の行事を家族の中で大切にすることで、子どもは安心して育つのです。

②「すくすく」と「ひまわり」

ひまわりの会（デイサービス）とひまわりの会、参加児童のメンバーも似かよっているし、そこにいる、大人たちも同じようなメンバーがいます。いったい何が違うのか不思議に思っている保護者の方もいらっしゃるかもしれません。

まず、ひまわりの会（デイサービス）は、県の事業で、ひまわりの会は市町村の事業と言う違いがあります。

次にプログラムの特徴です。

「ひまわりの会（デイサービス）」

親子で一緒に体を動かしたり、楽しんだりする内容が中心です。育児不安や育児上の質問等に答えられるよう、話し合いの時間を設けています。

「ひまわりの会」

給食を挟んで、午前中がサーキット、午後が個別プログラムとなっています。また、月に一度作業療法士（リハビリの先生）が来て、身体的な発達の面での相談が受けられるようになっています。